

研究タイトル：

インクルーシブデザインによるまち・ものづくり支援



| | | | |
|-----------------|--|---------|---------------------|
| 氏名： | 大塚 毅彦／OTSUKA Takehiko | E-mail： | otsuka@akashi.ac.jp |
| 職名： | 教授 | 学位： | 博士(学術) |
| 所属学会・協会： | 日本福祉のまちづくり学会、日本都市計画学会、日本ホリスティック教育協会、国際ユニバーサルデザイン協議会 | | |
| キーワード： | インクルーシブデザイン、ユニバーサルデザイン、バリアフリー、ホリスティックアントレプレナーシップ、災害時要援護者、ホスピタリティマインド、インプロ | | |
| 技術相談 提供可能技術： | <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサル社会づくりに向けての講演・まちづくり支援(兵庫県ユニバーサル社会づくり講師) ・インクルーシブデザインセミナー、ワークショップによるデザイン支援、商品開発 ・災害時要援護者避難支援(セミナー・ワークショップ・避難) | | |

研究内容： インクルーシブデザイン(ユニバーサルデザイン)のまちづくり

(1) インクルーシブ社会にむけてのユーザー中心デザイン教育への実践

インクルーシブデザインとは、これまでの製品やサービスの対象から無自覚に排除(Exclude)されてきた個人を、設計や開発の初期段階から積極的に巻き込み(Include)、対話や観察から得た気づきをもとに、一般的に手に入れやすく、使いやすい、魅力的な、他者にも嬉しいものを新しく生み出すデザイン手法である。ロンドンの英国王立芸術大学院(Royal College of Art)・ヘレンハムリンセンター発のコンセプトである。インクルーシブデザインは「ユーザー参加型デザイン」の一つで、市民やユーザーの声を引き出しやすくするためにワークショップの形態をとり1グループ5人～7人で構成され、その中に1人「リードユーザー」と呼ばれる“進んだ要求、厳しい要求をもっている顧客(障害者等)”を含むのが特徴である。リードユーザーは被験者ではなく、「デザイン・パートナー」として迎えられユーザーを単に意見や物理的なデータを得る対象としての不特定「被験者」ではなく「個人」として、その人特有の思考や行動を理解し、その個別解の中に、デザインへのインサイト(洞察)や普遍化できる本質的な問題を見出そうという考え方からきている。ワークショップは「気づく」「描く」「つくる」「魅せる」4つのプロセスに分けられる。国際協力として、東南アジアの国々での建築・都市計画面でのユニバーサルデザイン教育の普及・支援を行っている。(例：国立デポネゴロ大学(インドネシア))

平成25年度から、明石高専専攻科にて新設科目：「インクルーシブデザイン概論」を開講。

地域社会でのユニバーサルデザインの啓発活動。うおずみん・UDプロジェクト(<http://www.universal-design.net/>)

(2) 地域に密着した災害時要援護者支援教育プログラムの構築

阪神淡路大震災、東日本大震災を教訓として、災害時において住民の助け合い(共助)の中で要援護者の避難誘導を行うことができる援護者を増やしていくこと(災害時のユニバーサル)を目的に、地域密着型で地域住民が主体となった災害時要援護者の避難プログラムの開発及び災害グッズ(布担架等)の実効性当の検証を、当事者の参画の元で実施している。平成24年度自治会・当事者(障害者)参画による防災パンフレットを作成した。

・防災通信「きんぽ防災まちづくり通信 平成25年3月発行」⇒神戸新聞やwebマガジン「ウーマンライフ」で紹介[平成13年6月] <http://www.womanlife.co.jp/topics/detail.html?k=4979&pu=&ar=>

(3) インプロ(即興劇)を活用したホスピタリティマインド溢れるアントレプレナーシップ教育

高専教育(デザイン教育)において、インプロ(即興劇)を活用したホスピタリティマインド溢れるアントレプレナーシップ教育の研究を行っている。

提供可能な設備・機器：

| 名称・型番(メーカー) | |
|-------------|--|
| | |
| | |
| | |
| | |